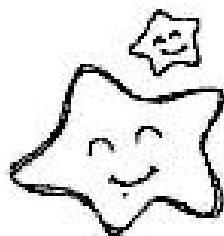


QSK

にぬふあぶし

No.303 ^ね子の方向の星(北極星)



地域活動支援センターてるしの(南風原町) 三線倶楽部やっています!

朝ドラ『ちむどんどん』が始まりました。かつて放映された『ちゅらさん』は、全国的な沖縄ブームの火付け役となりましたが、さて今回も後に続くことができるでしょうか。劇中では、主人公のお父さんをはじめとする三線愛好家も登場して、彼らの演奏を楽しむこともできそうです。

さて、地域活動支援センターてるしのでは毎週1回、同好の士が集まって、みんなで三線の練習をしています。

参加者は幅広く、まったくの初心者という人もいれば、「伝統芸能選考会」で新人賞入賞という腕前の人もあります。いつかクリスマス会や忘年会などでお披露目できるようになることを目標に、いまは安波節^{あはぶし}や安里屋^{あさとや}ユンタなどの定番曲を練習中。



楽器は各自持ち寄り。ギターの人もいるようですが・・・(いつもは三線を持ってきています)

とはいえ、まずはみんなで無理なく楽しむことを大切にしているので、関心のある方は一緒にいかがでしょうか? いまは月曜日の午後の時間に集合しています!

南風原町の地域密着型YouTube

『兼城十字路チャンネル』をご存じですか?

先日の『ルルンはえばるフェスタ』で
てるしのワークセンターも取材を
受けています。要チェック!
(てるしのの出番は8分頃から)



みんなねっと九州ブロック精神保健福祉研修会 in 宮崎

「笑顔笑顔でSDGs」

参加報告

読谷村家族会会長 當山 幸子

みんなねっと九州ブロック宮崎大会に、オンラインで参加しました。

笑顔のコンサートは、バイオリンとピアノによる姉妹のデュオ。「音の華、咲かせる」という思いを込めて「カトレア」というデュオ名にしたそうで、結成10年目の姉妹の演奏は、**優美で美人で艶やかで魅力的**でした。

復興支援応援ソング「花が咲く」は心にすごく響きました。**戦争があっても地球は休まず動いている**。私たちができることとして、助け合い支え合って生きていきたいと思いました。

市来真彦さんによる講演は、「笑いは人を元気にする」。

人はそれぞれ自分自身の「健康を判定する基準」を持っており、その基準のことを「健康のものさし」と呼びます。大半の人は人生の途中から病気を



持って生活をするようになります。では、そうして「病を持って生活をするようになった人」は、もう一生健康になることはできないのでしょうか？ いえいえ、そんなことはありません。**健康度をはかるものさしのひとつは「笑い」**です。

「笑い」は健康度を高める道具になるのです。人生はなかなか思い通りにはいかない。思いもかけない事態に直面したとき、心がくじけそうになったとき、そんなとき困難とどう向き合い、どのように考えれば再び立ち上がれるか。困難を乗り越え、前向きに生き抜くために「笑い」は健康度を高める道具になります。秘訣は「**元気、陽気、やる気、強気、勇気**」の5つの気で、気持ちを前向きにくじけない心で、

笑う門には福来たる 笑いは人を元気にする を意識して毎日笑っていききたい！

つらいとき、笑え
悲しいとき、笑え



沖縄県社協創立70周年「特別記念座談会」を見て

昨年度の第64回沖縄県社会福祉大会では、県社協創立70周年として、「特別記念座談会」が持たれました。

“沖縄の社会福祉の歴史を振り返り、これからを見据える”というテーマのもと、2部構成で組まれたこの座談会は、沖縄県社協のホームページからオンラインでいつでも視聴することができます。後編には、沖福連の兼浜克弥氏も参加しているので、ぜひご覧いただければ幸いです。

座談会のビデオは後編だけでも2時間を超えるボリュームなのですが、最初ラジオがわりに「ながら聴き」をしていたら、内容が期待以上に面白くてついアタマからまたじっくり観返してしまいました。



通して視聴をして感じたこととしては、私たちはだいたいみんな相変わらず、「枠」に捕らわれているということです。これを常識とか社会通念と言い換えてもいいと思いますが、物心ついた頃から、私たちはむしろ進んでこの窮屈な枠のなかに身押し込めていきます。

それで枠から外れることを死活問題かのように感じます。

「多様性」ということを言い続けながら、この枠が広がっている雰囲気もなければ、枠のなかがそれほど生きやすくなっている実感もありません。

枠の外には魔物が徘徊しているという噂で、それを「自分らしさ」と呼ぶ人もいれば、「自己責任」と呼ぶ人もいます。真偽不確かのまま、ともかくどうしても枠に身体が合わなくて外にはみ出している人もいます。そのつもりがないのに、気がついたら外に出てしまっている人もいます。

枠の内と外とを自由に行き来できるようになると、お互いにとって世界が広がるように思うのですが、これを実現するにはまず余白的な緩衝地帯がたくさんできることが、第一歩としては現実的かも知れません。

そのためのヒントや考えるきっかけが盛り沢山の座談会、兼浜さんの語る「福祉教育」や「ピアサポート」の話もちろんいいし、それから私は特に沖労福・濱里正史さんの問題提起にいちいち強く共感できました。(増山)

神父さんがやってきました

新しい年度を控える3月、南風原町にある沖福連の事務所と『てるしのワークセンター』に、カトリック与那原教会から神父さんが訪れ、一同の健康と安全をお祈りしてくれました。インドから日本に来てもう20年以上になるというクレバー神父さん。母国語以外に何か国語も使いこなせるそうで、もちろん日本語にも不自由なく、ご自身のことや教会のことなどいろいろな興味深いお話も聞くことができました。



編集後記

これを書いているのは、ちょうど清明祭の季節。1月にはみんなで初詣に行ったし、12月にはクリスマスツリーを飾りました。私たちにとって信仰や宗教とはなにを意味するものでしょうか。今年ひいたおみくじをデスクに飾ってあります。“苦勞の先に花咲く幸せあり”。一応、中吉です。(増)

編集：公益社団法人 沖縄県精神保健福祉会連合会
会長 山田 圭吾

〒901-1104

沖縄県島尻郡南風原町字宮平 206-1

てるしのワークセンター内

電話 098-889-4011 FAX 098-888-5655

E-mail terushino@castle.ocn.ne.jp

発行：九州障害者定期刊行物協会

〒812-0044

福岡市博多区千代 4-29-24 三原第3ビル 3F

電話 092-753-9722 FAX 092-753-9723

定価：10円(会費に含まれる)